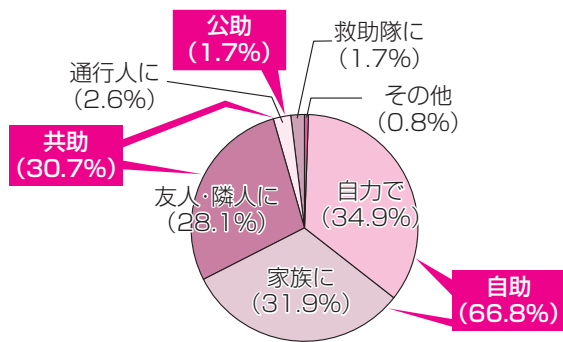


阪神・淡路大震災における救助・救出活動の実態



(注)日本火災学会 兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書より

『共助』

地域住民が連携して

まちの安全は

みんなで守る

『近所の底力』

ひとたび災害が発生すると、個人や家族の『自助』だけでは限界があります。このような時、毎日顔を合せている近所の人たちが集まって、お互いに協力し合いながら、防災活動に取り組む『共助』が必要になってきます。

平成7年に起きた阪神・淡路大震災では、生き埋めや建物などに閉じ込められた方のうち、自力や家族によって脱出した『自助』が66・8%、次に友人・隣人によって救助された『共助』が30・7%を占めました。一方で専門の救助隊に救助された『公助』は1・7%程度でした。

これは、大規模な災害が発生した場合、防災関係機関の対応には限界があることを物語っています。その一方で、近所の多くの人が協力し合い、救助活動に参加して貴い命を守った事例や、初期消火を行い延焼を防止した事例などが報告されています。

自主防災組織で地域を守る

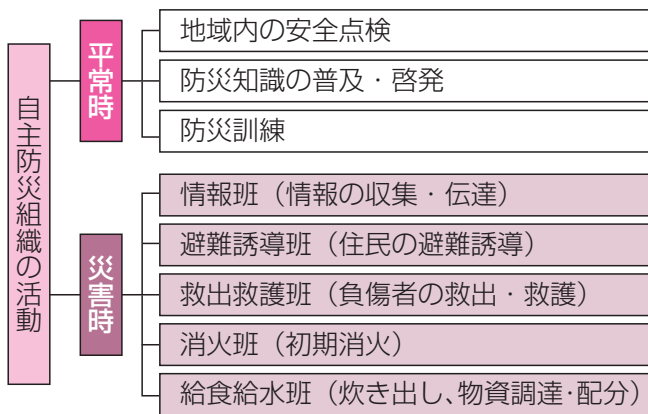
わたしたちは、災害を防ぐことはできません。しかし、地域で支え合い、減災することはできます。

阪神・淡路大震災を契機に、『自

分たちの地域は自分たちで守ろう』という意識が芽生え、住民が地域の防災活動を行う自主防災組織の結成が全国各地で進んでいます。

自主防災組織は、住民の避難誘導や被害の拡大防止など、災害時の初期活動を行います。消防などの防災関係機関が現場に到着するまでの間、地域住民の方がこうした活動を組織的に行うことで、被害は最小限に抑えることができます。

また、地域には寝たきりの高齢者、身体機能障がい者などの災害時に救助の必要な方も住んでいます。自主防災組織の『共助』の活動は、このような方の被害を軽減させるためにも極めて重要です。



自主防災組織を結成しませんか

市では、自主防災組織づくりを進めています。

現在市内の自主防災組織の結成率は54%と年々増えています。平均の約70%を下回っている状況です。

組織は、町内会など、地域の方の顔が見えるくらいの範囲でつくるのが効果的です。あなたの町内会などでも自主防災組織の結成に向けて考えてみませんか。

市では、防災資機材購入に伴う補助などを支援しています。ぜひ、ご相談ください。

『防災研修会』を実施しています

防災研修会では、災害に強いまちづくりや防災について理解を深めるため、町内会やサークルなどの団体を対象に、防災研修会を随時実施しています。

皆さんの身近な疑問にお答えするなど、ご要望に応じてお話しします。